

将来構想「平塚市民病院 Future Vision 2017-2025（改訂版）」の令和3年度実績評価について

【総合評価】

○自己点検（令和3年度）

令和3年度は、令和2年度に見直しを行った将来構想「平塚市民病院 Future Vision 2017-2025（改訂版）」の1年目となり、引き続き「持続的な健全経営の下、高度医療、急性期医療及び政策的医療を担い、患者さんの生命（いのち）を守る診療を行う」というビジョン達成のために更なる取組を進めました。令和2年度に新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた病院運営を立て直すため、高度急性期病院として、DPCの入院期間を意識した在院日数の重要性を再認識するとともに、新入院患者の確保に重点的に取り組みました。

その結果、前年度と比べ、「平均在院日数」が短縮し、新入院患者数、「入院診療単価」や「手術件数」が増加しました。収支では、医業収益が約7億2,100万円増加し、「医業収支比率」、「経常収支比率」が改善しました。一方、これまで開催していたクロスミーティング（開業医との連携の会）や「市民健康講座」など開業医との連携強化や市民・患者さん向けの活動については、ほとんど実施できておらず、今後、オンラインやWebを活用し、積極的に取り組みたいと考えています。

徐々に回復傾向にはありますが、新型コロナウイルス感染症の影響で、患者の受療動向が変化しコロナ収束後も患者が戻らず、コロナ関連補助金もいつまでも続かないと考えられる中で、持続的な健全経営を行うためには、新入院患者や手術件数などの増加に向けた更なる取組が不可欠です。

今後も、地域の中核病院として、高度医療、急性期医療、政策的医療を担う病院としての役割を果たすために、「地域医療と市民生命を守る」という理念の下、引き続き職員一丸となってビジョン達成のための取組を進めながら病院運営を行います。また、教育の充実・キャリアアップの支援・採用活動の工夫など職員が成長を実感できる魅力ある環境を整えることで、人材を確保し、医療の質を向上することで、地域医療機関、市民の皆さん、患者さんから信頼を得て「選ばれる病院」となることを目指します。

項目		H29	H30	R1	R2	R3	項目		H29	H30	R1	R2	R3
平均在院日数 ※R7目標値：9.5	上半期(日)	10.0	10.3	10.1	10.5	9.9	入院診療単価 ※R3目標値：68,205	上半期(円)	62,136	65,208	66,539	60,282	72,016
	年間(日)	10.1	10.2	10.4	10.5	10.0		年間(円)	63,469	66,953	67,307	69,969	76,904
手術件数 ※R7目標値：4,400	上半期(件)	1,850	1,938	2,033	1,635	1,999	1日当たり平均入院患者数 ※R3目標値：371.8	上半期(人)	325.9	345.5	352.5	305.2	307.1
	年間(件)	3,630	3,937	4,007	3,356	3,882		年間(人)	327.7	350.1	348.9	311.1	303.3
医業収支比率 ※R3目標値：90.8	上半期(%)	93.8	96.7	95.9	78.1	88.0	経常収支比率 ※R3目標値：99.6	上半期(%)	112.4	106.1	104.9	88.4	96.5
	年間(%)	83.1	90.9	90.2	82.5	86.4		年間(%)	93.5	100.9	99.6	115.4	118.0

○外部点検（平塚市病院運営審議会）

平塚市民病院は、これまで将来構想の実現に向けて積極的に取り組んできたものの、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の医療機関、患者、地域住民とのコミュニケーションの機会が減少しており、特に平塚市民病院が自ら仕掛ける部分の努力が見えなくなっている。環境的に難しい状況であるが、他病院の事例などを参考に対面だけでなく、動画なども活用し、様々な媒体で更なるアピールが必要であるとする。地域や病院のための活動に参画する方策を検討し、各職員の自発性を引き出し、市民のため地域のためにできるサービスを考えてほしい。

また、令和4年度の診療報酬改定では、地域で感染症対策が求められている。ウイズコロナ、アフターコロナを踏まえ、平塚市民病院としてホスト役になり地域の医療機関と連携し感染症対策の役目を担ってほしいと期待している。

今後も患者や地域に対して有益な活動を積極的に行うよう期待している。

○市長からの意見・指示

令和3年度も市民病院は、新型コロナウイルス感染症患者に対応するとともに、高度・急性期病院として医療を提供し、地域医療や市民の皆様の安全を守る重要な役割を果たすことができた。新入院患者数や医業収益などは改善傾向にあるものの、将来にわたり持続的な健全経営を進めるためには更なる努力が必要である。外部委員からの意見にあるように、病院が自ら働きかける積極的な活動を期待したい。

新型コロナウイルス感染症対応は長期化しており、従事する職員は健康状態に留意しながら業務にあたってほしい。今後も将来構想に定めた方針に従い、地域医療機関との連携の下、高度医療や急性期医療を提供して経営の安定化を図ってほしい。また、政策的医療を担い、市民の皆様や地域の皆様に求められる良質な医療を持続的に提供してほしい。

【令和7年（2025年）度の診療機能】

内容	具体的施策	令和3年度	
		評価・検証（病院長）	評価・検証（病院事業管理者）
地域の中核病院としての高度医療・急性期医療を担います	「地域医療支援病院」として、高度医療・急性期医療の分野を担い、地域の医療機関と連携して、地域完結型医療の中で主要な役割を果たしていきます。	新型コロナウイルス感染症が流行した中でしたが、地域の医療を守ることを第一に考え取り組んできました。前年度と比して、手術件数が増加し、重症患者への対応を着実に実施することで、地域の中核病院としての役割を果たすことができているが、更なる増加に向けた取組を行っていく必要があります。	新型コロナウイルス感染症の流行下ではありますが、新入院患者の確保とDPCの入院期間を意識した在院日数を重視し取り組んだ結果、平均在院日数が短縮し、手術件数、新入院患者数、入院診療単価が増加するなど、徐々に回復傾向にあります。しかし、地域完結型医療の中で高度医療、急性期医療を担う中核病院として、更なる新入院患者の確保、手術件数の増加及び病病、病診連携の取組が必要です。
救急医療体制を強化します	救命救急センターとして、「断らない救急」を実践するとともに、心臓大血管センター、脳卒中センターを充実し、救急搬送患者をより効率的に受け入れるよう体制を強化します。	当院は、前年度に引き続き高い救急応需率を維持しました。地域の救急搬送件数の増加とともに、当院への救急搬送件数も前年度と比べ増加しており、救急車搬送患者入院患者数は、過去最高となりました。救急医は前年度と比べると増加しましたが、神経系疾患や循環器疾患にかかわる医師をはじめとして更なる常勤医師の充実が課題です。	救命救急センターとして「断らない救急」を実践し、高い応需率を保っています。救急搬送患者数、救急搬送入院患者数は増加していますが、高度急性期病院として、神経系疾患、循環器系疾患は重点的に取り組まなければなりません。
がん医療の充実に努めます	(1) 胃・大腸・肺・肝臓・乳がんの5大がんをはじめ、これまで力を入れてきた泌尿器科・婦人科領域のがんについても、高い診療レベルを維持します。 (2) 手術、化学療法、放射線治療とそれらの集学的治療に加えて、緩和ケアにも力を入れます。	手術、薬物療法、放射線療法などを組み合わせ、引き続きがん診療の実績を積み重ねています。がん診療戦略室による更なる取組を進めます。緩和ケア内科などの常勤医師の確保を目指します。	がん治療戦略として手術・薬物療法・放射線療法などを組み合わせた集学的治療を行うと共に、緩和ケアにも取り組んでいます。
地域の小児・周産期医療の中心を担います	(1) 公立病院として、地域で求められる小児・周産期の高度医療、救急医療に対応できる診療体制の維持に努めます。 (2) 妊娠・出産から、新生児・乳幼児・小児期を一貫した体制で診療します。	地域の小児・周産期救急医療を一手に引き受けており、出生数が減少し、少子化が進んでいる中で更なる集約化、小児科医の確保が大きな課題です。	医師不足や不採算部門のために他院が小児・周産期医療を縮小していく中で、24時間365日高度医療・救急医療に対応しています。出生数が減少し、少子化が進む中で、小児・周産期医療を維持し、患者を確保するためには、当院の"売り"を広く発信する必要があります。
地域包括ケアシステムにおいて急性期の病院としての役割を担います	急性期の病院として、急性期病態への対応や、地域の医療機関等への教育指導、情報共有に努めます。	新型コロナウイルス感染症への対応のために、開業医とのホットラインである"クロスビッチ"について、一時、運用を停止しました。"クロスビッチ"は、地域医療連携に有用であり、在宅の往診医のサポートにも役立っているため、有効に活用したいと考えています。また、多機関による連携を更に図っていく必要があります。	地域連携を推進し、逆紹介により外来患者の診療を診療所などをお願いすることにより、急性期患者中心の診療を行っています。地域包括ケアシステムの中で高度医療・急性期医療を行う病院としての立場を明確にしています。
災害拠点病院としての機能を充実します	(1) 自然災害に強い病院づくりを目指します。 (2) 災害時に多発する重篤患者の受入れや、災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣を行います。	井戸、災害用トイレなど当院のもつ設備の有用性を職員に積極的に紹介してきました。地震以外の水害などの対応も検討していく必要があります。	大災害に対応できる設備を持っており、災害時に対応できるよう訓練を行っています。

【短中期事業計画】

内容/年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
外来患者数（1日平均）	846.2人	829.0人	718.7人	738.9				741.3人
外来診療単価	14,341円	15,463円	17,795円	18,220円				18,000円
外来受診体制	呼吸器内科、精神科が完全紹介制	呼吸器内科、精神科、整形外科、眼科が完全紹介制	呼吸器内科、精神科、整形外科、眼科が完全紹介制	呼吸器内科、精神科、整形外科、眼科が完全紹介制	「完全紹介制」の拡大を検討 ▶			
入院患者数（1日平均）	350.1人	348.9人	311.1人	303.3人				373.4人
入院診療単価	66,953円	67,307円	69,969円	76,904円				70,000円
病棟運用	386床 (H30.7～)	402床 (R1.7～)	354～381床	354～389床				
入退院支援の強化	-	PFM試行	消化器内科ESDを対象に実施	循環器内科CP、消化器外科、呼吸器外科、血管外科、乳腺外科を対象に追加	R2以降PFM順次導入、実施			
救急搬送患者入院患者数	2,725件	2,747件	2,551件	2,995件				3,000件
手術件数	3,937件	4,007件	3,356件	3,882件				4,400件
手術室稼働率	-	54.2%	49.1%	54.0%	手術室稼働率の上昇 ▶			
紹介率	71.4%	78.6%	80.1%	79.4%				80.0%
逆紹介率	98.4%	108.0%	117.2%	111.4%				100.0%
医療機器の新規導入	-	外科手術用Cアーム型X線撮影装置	-	全身用X線CT診断装置				
職員の質の向上、確保	研修の実施、資格取得・自己研鑽の支援等				採用活動の工夫、多様な働き方改革への対応、教育体制の充実、資格取得・自己研鑽の支援等			

1 医療の質と効率の視点

令和3年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

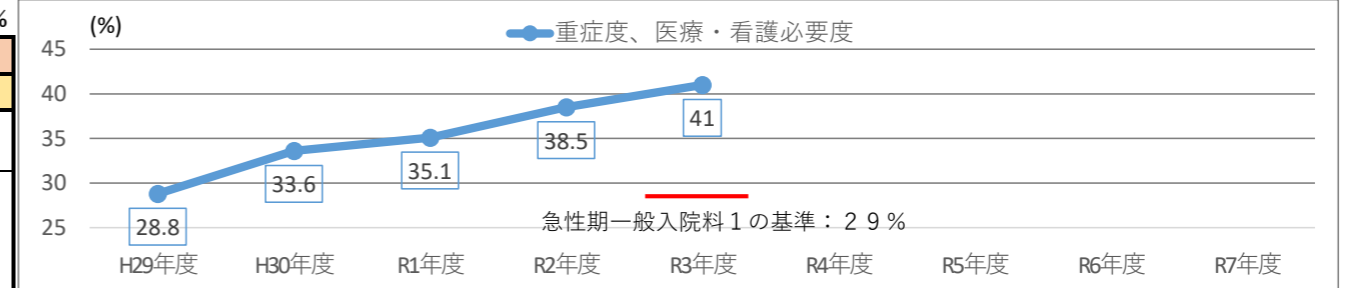
令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、救急対応については、市内の救急搬送が増加する中で高い「救急搬送応需率」を維持し、「救急車搬送患者入院患者数」が過去最高になりました。手術実績については、「手術件数」、「全身麻酔件数」が前年度よりも増加しましたが、目標は達成できませんでした。

今後も、高度急性期医療を提供するための医師をはじめとした職員の確保や運用病床数の拡大のほか、情報発信により広範囲から患者を確保することで、新入院患者の増加を図り、目標達成を目指します。

(ア) 重症度、医療・看護必要度（一般病棟）

単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門									
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
重症度、医療・看護必要度 (一般病棟)	目標値	(26.5)	(27.0)	(27.5)	(28.0)	急性期一般入院料1の施設基準を満たします。				
	上半期実績	(29.2)	(34.0)	(33.4)	(37.7)	39.5				
	H28実績：29.4	年間実績	(28.8)	(33.6)	(35.1)	(38.5)	41.0			



※重症度、医療・看護必要度（一般病棟）＝（基準を満たす患者の延べ数（特定入院料算定患者、自費患者を除く））／（入院患者延数（特定入院料算定患者、自費患者を除く））×100

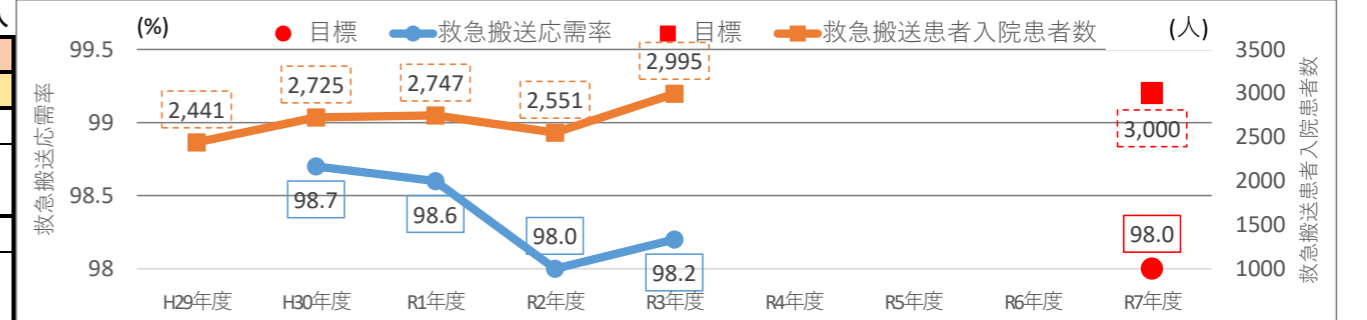
※令和2年10月から重症度、医療・看護必要度IIで計算しています。

※令和2年度年間実績は、令和2年10月から令和3年3月の実績で計算しています。

(イ) 救急患者受入数（産科及び小児科（周産期）を含む。）

単位：%・人

【関係部門】	診療部門、事務部門									
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
救急搬送応需率	目標値	-	-	-	-	現在の高い水準を維持します。				98.0
	上半期実績	-	-	-	-	98.4				
	H28実績：2,420	年間実績	-	98.7	98.6	98.0	98.2			
救急車搬送患者 入院患者数	目標値	2,500	2,650	2,750	2,850	増加を目指します。				3,000
	上半期実績	1,174	1,299	1,446	1,226	1,494※				
	H28実績：2,420	年間実績	2,441	2,725	2,747	2,551	2,995			

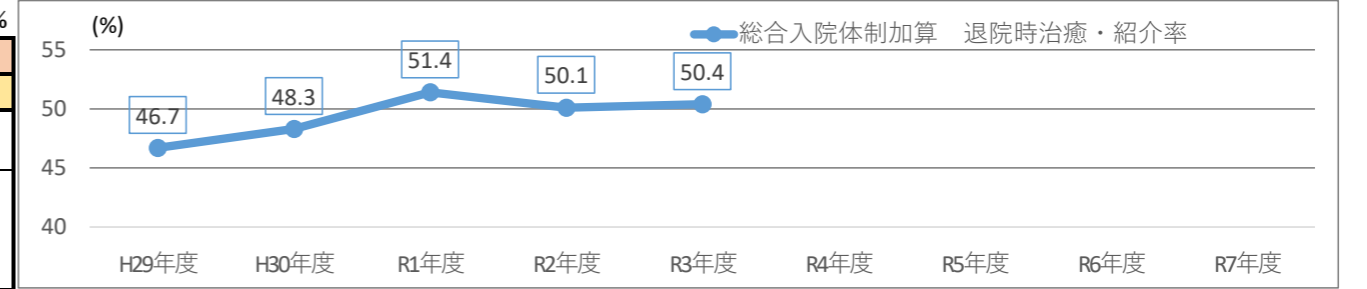


※精査の結果、令和3年度中間評価時点から変更になっています。

(ウ) 総合入院体制加算 退院時治癒・紹介率（総合入院体制加算の施設基準による）

単位：%

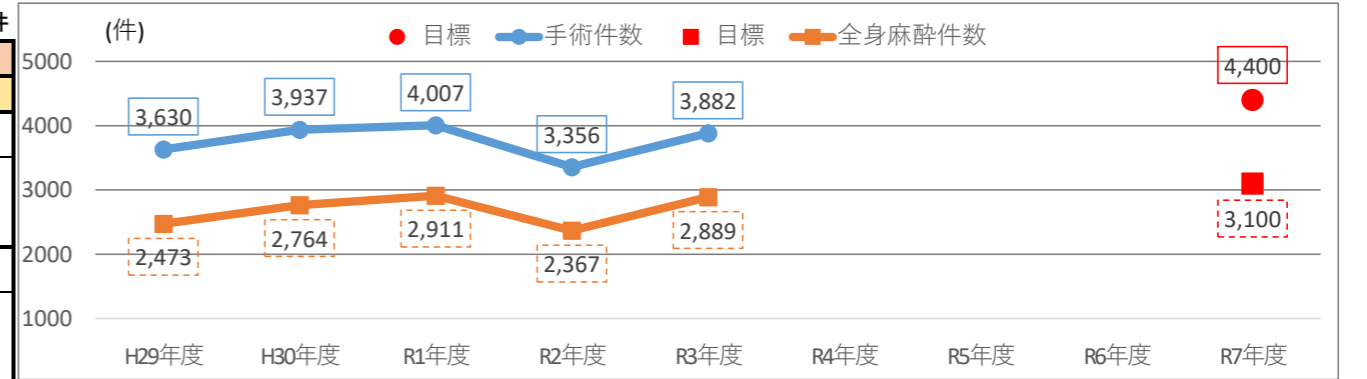
【関係部門】	診療部門									
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
総合入院体制加算 退院時治癒・紹介率	目標値	40	40	40	40	総合入院体制加算2の施設基準を満たします。				
	上半期実績	43.5	47.8	48.5	51.0	52.0				
	H28実績：28.9	年間実績	46.7	48.3	51.4	50.1	50.4			



(エ) 手術件数

単位：件

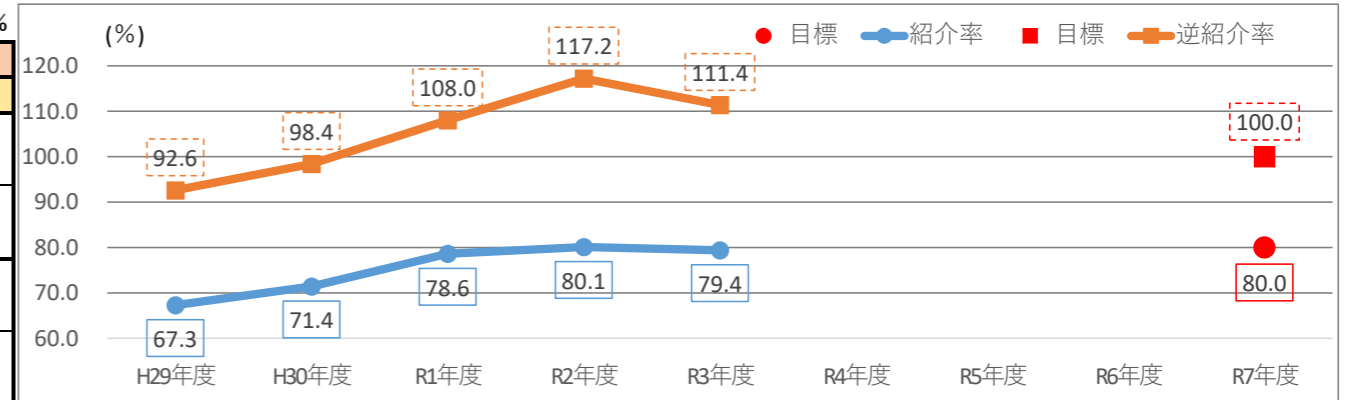
【関係部門】	診療部門									
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
手術件数 (中央手術室)	目標値	3,800	4,000	4,200	4,400	増加を目指します。				4,400
	上半期実績	1,850	1,938	2,033	1,635	1,999				
	H28実績：3,696	年間実績	3,630	3,937	4,007	3,356	3,882			
全身麻酔件数	目標値	2,550	2,700	2,850	3,000	増加を目指します。				3,100
	上半期実績	1,213	1,342	1,447	1,121	1,472				
	H28実績：2,484	年間実績	2,473	2,764	2,911	2,367	2,889			



(オ) 紹介率・逆紹介率

単位：%

【関係部門】	診療部門、事務部門									
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
紹介率	目標値	68.0	72.0	76.0	80.0	地域医療支援病院の承認要件を満たすとともに地域医療連携を進め、高い水準を維持します。				
	上半期実績	68.5	-	74.9	77.8	77.6				
	H28実績：62.3	年間実績	67.3	71.4	78.6	80.1	79.4			
逆紹介率	目標値	85.0	90.0	95.0	100.0	地域医療支援病院の承認要件を満たすとともに地域医療連携を進め、高い水準を維持します。				
	上半期実績	89.4	93.0	100.3	111.1	109.3				
	H28実績：86.6	年間実績	92.6	98.4	108.0	117.2	111.4			



※紹介率＝紹介患者の数(初診に限る) / {(初診患者の数(初診料算定患者))- (救急自動車により搬入された患者数(初診に限る))- (休日又は夜間に受診した救急患者数(初診に限る))- (健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認め治療を開始した患者数(初診に限る))} × 100

※逆紹介率＝逆紹介患者の数(診療情報提供料算定患者数) / {(初診患者の数(初診料算定患者))- (救急自動車により搬入された患者数(初診に限る))- (休日又は夜間に受診した救急患者数(初診に限る))- (健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認め治療を開始した患者数(初診に限る))} × 100

II 患者満足の視点

令和3年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

令和3年度は、前年度に引き続き、三次救急医療機関として救急対応を行うとともに、平塚・中郡地域の産科・小児科の二次救急当番を当院のみで担いました。また、平塚・中郡地域で唯一分娩ができる病院として医療体制を維持しましたが、周辺自治体の出生数の減少などにより、前年度よりも「分娩件数」が減少しました。

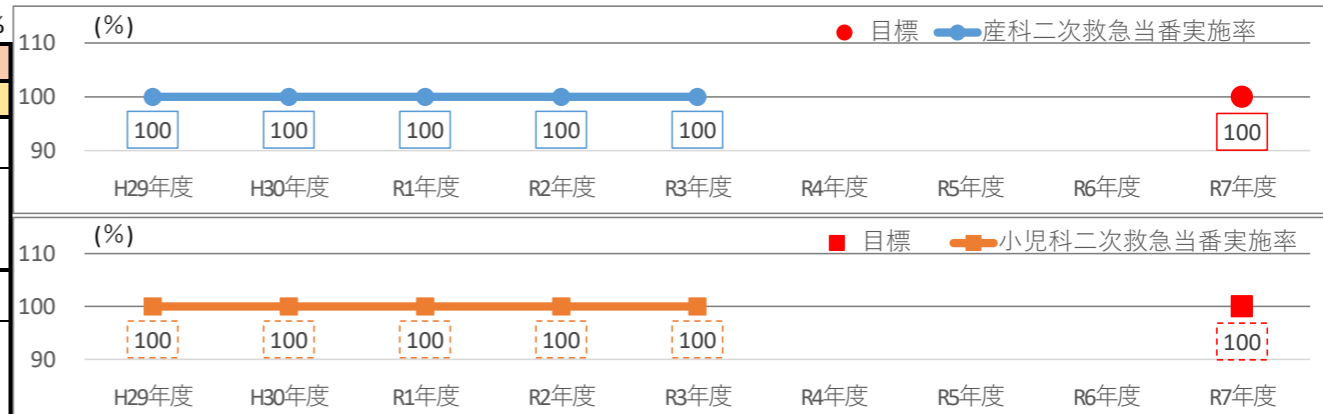
患者に対する情報発信については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、院内での市民向け講座や医療機関向けの公開講座は実施しませんでした。また、ホームページや病院広報誌「Smile!」で当院の情報について積極的に発信しました。

今後は、オンラインによる会議やセミナーを活用することで、広く患者や地域の皆さんに対する情報発信を進めます。

(ア) 産科・小児科（周産期）の二次救急当番実施率

単位：%

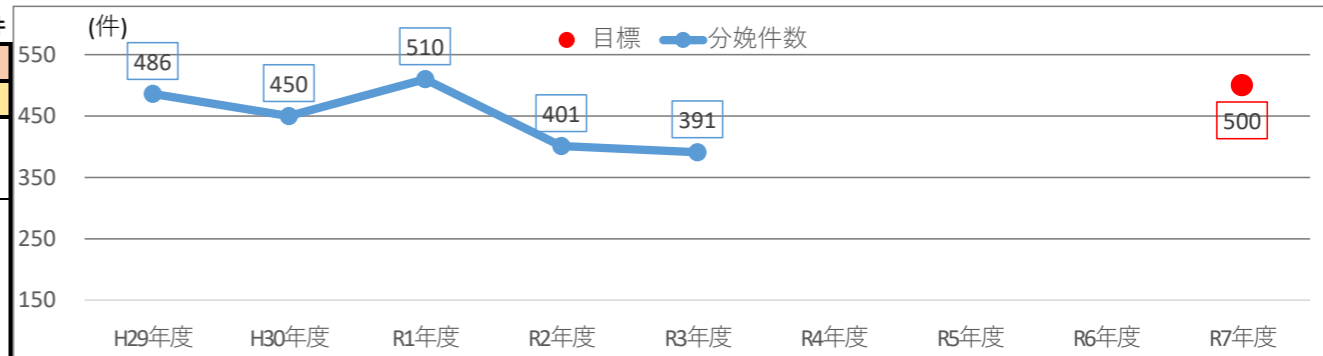
【関係部門】		診療部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
産科	目標値	-	-	-	-	小児、周産期の救急医療体制を維持します。				100
	上半期実績	-	-	-	-	100				
	年間実績	100	100	100	100	100				
小児科	目標値	-	-	-	-	小児、周産期の救急医療体制を維持します。				100
	上半期実績	-	-	-	-	100				
	年間実績	100	100	100	100	100				



(イ) 分娩件数

単位：件

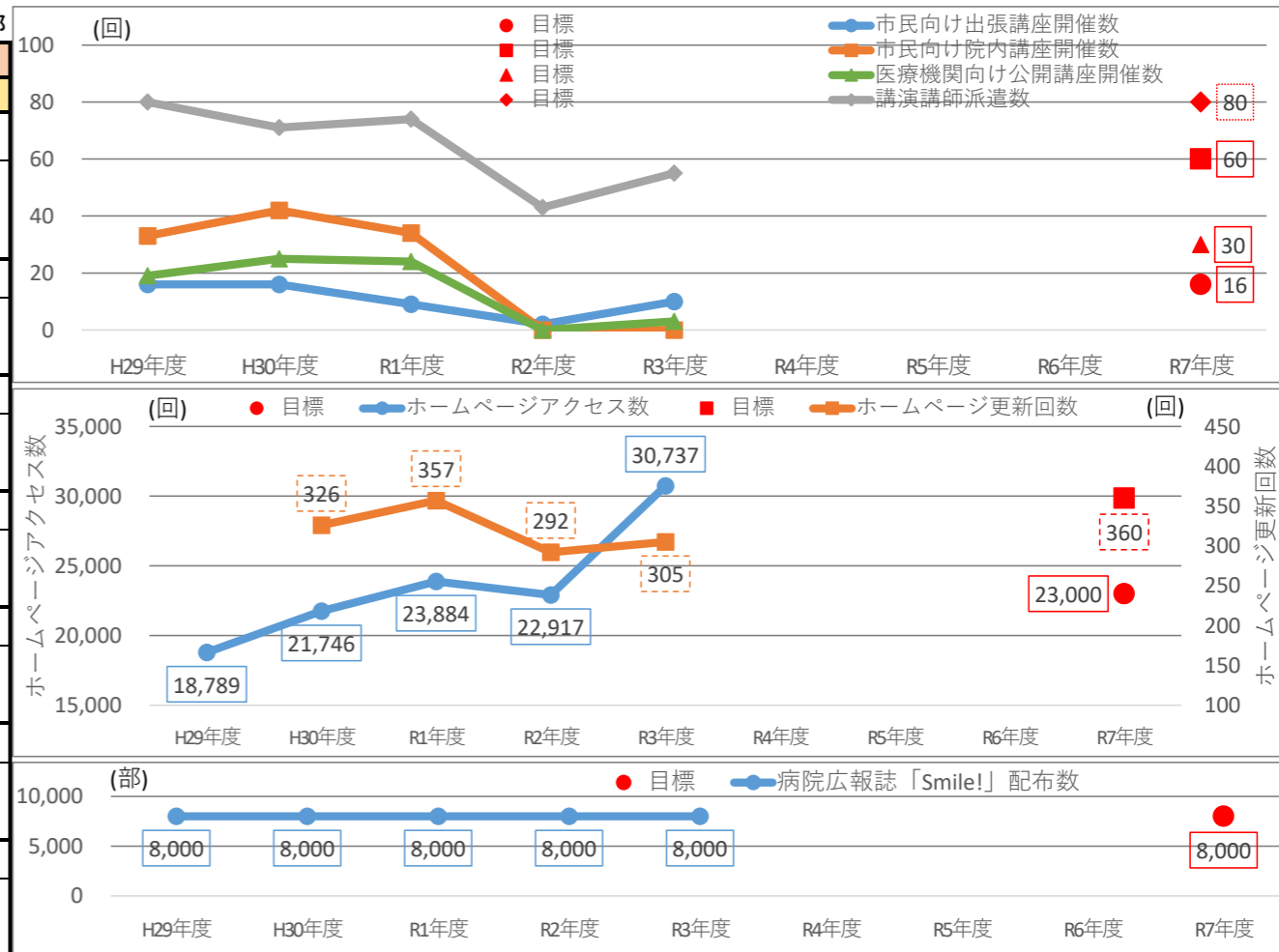
【関係部門】		診療部門、看護部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
分娩件数 (子どもの数)	目標値	490	520	550	580	分娩に対応できる体制を維持します。				500
	上半期実績	256	239	264	226	189				
	年間実績	486	450	510	401	391				
H28実績：453										



(ウ) 情報発信件数

単位：回・部

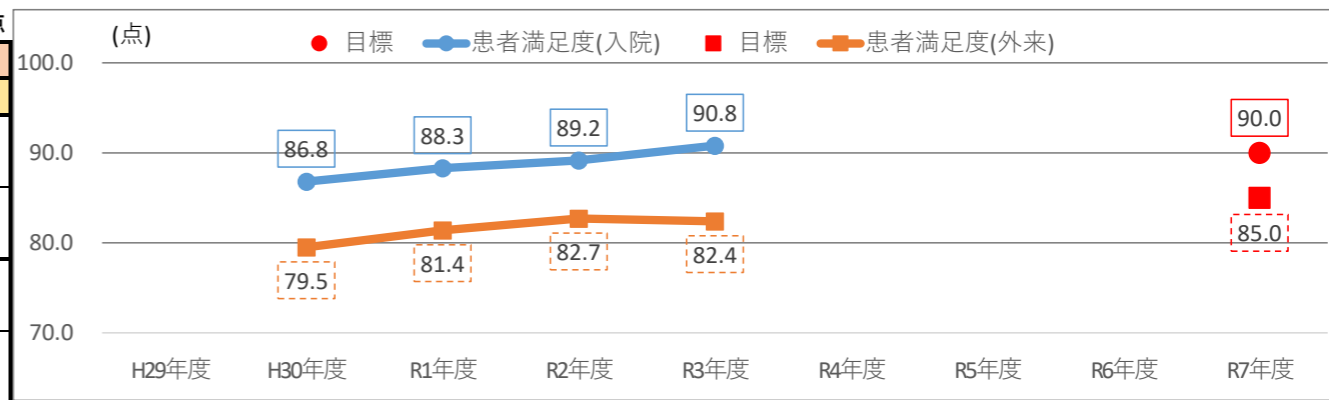
【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民向け出張講座開催数(出前講座など)	目標値	11	12	13	15	引き続き情報発信を積極的に行います。				16
	上半期実績	-	-	-	-	-				
	年間実績	16	16	9	2	10				
H28実績：13										
市民向け院内講座開催数	目標値	55	56	57	60	引き続き情報発信を積極的に行います。				60
	上半期実績	-	-	-	-	-				
	年間実績	33	42	34	0	0				
医療機関向け公開講座開催数	目標値	16	17	18	20	引き続き情報発信を積極的に行います。				30
	上半期実績	-	-	-	-	-				
	年間実績	19	25	24	0	3				
講演講師派遣数	目標値	40	40	45	45	引き続き情報発信を積極的に行います。				80
	上半期実績	-	-	-	-	-				
	年間実績	80	71	74	43	55				
ホームページアクセス数(月平均)	目標値	19,000	20,000	22,000	23,000	引き続き情報発信を積極的に行います。				23,000
	上半期実績	19,646	21,883	24,182	23,861	31,795				
	年間実績	18,789	21,746	23,884	22,917	30,737				
H28実績：19,200										
ホームページ更新回数	目標値	-	-	-	-	引き続き情報発信を積極的に行います。				360
	上半期実績	-	-	-	-	-				
	年間実績	-	326	357	292	305				
病院広報誌「Smile!」配布数	目標値	8,000	116,500	6,000	5,000	引き続き情報発信を積極的に行います。				8,000
	上半期実績	2,000	4,000	4,000	4,000	4,000				
	年間実績	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000				
H28実績：8,000										



(エ) 患者満足度

単位：点

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
入院	目標値	-	-	-	-	患者さんに、満足していただける医療を提供します。				90.0
	年間実績		86.8	88.3	89.2	90.8				
外来	目標値	-	-	-	-	患者さんに、満足していただける医療を提供します。				85.0
	年間実績		79.5	81.4	82.7	82.4				



III 経営・財務の視点

(ア) 経営改善に係るもの

令和3年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

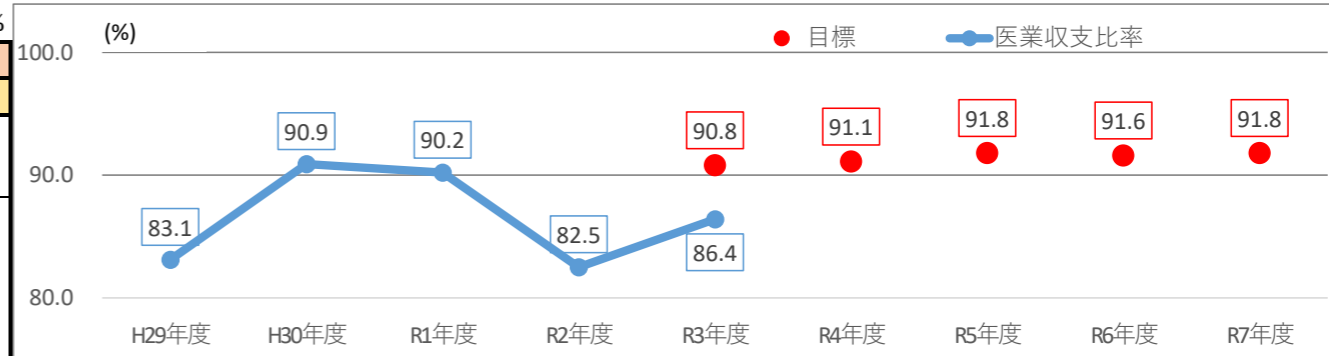
令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、医業収益が、前年度と比べ約7億2,100万円増加したことで「医業収支比率」及び「経常収支比率」はやや改善しました。これはDPCの入院期間を意識した在院日数の適切な管理、新型コロナウイルス感染症対応に係る診療報酬の特例による入院診療単価の増加及び新入院患者数の増加により医業収益が増加したことなどが主な要因と考えています。また、新型コロナウイルス感染症対応に係る補助金を積極的に活用することで、経常収支比率は2年連続で黒字となりました。

良質な医療の提供には、経営の安定化が不可欠であり、今後も高度急性期医療を提供するための医師をはじめとした職員の確保や運用病床数の拡大などにより新入院患者の増加を図り、収益増加につなげるとともに、効率的な運営により経費削減に取り組みます。

a 医業収支比率

単位：%

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
医業収支比率	目標値	83.3	89.4	90.6	92.7	90.8	91.1	91.8	91.6	91.8
	上半期実績	93.8	96.7	95.9	78.1	88.0				
H28実績：86.3	年間実績	83.1	90.9	90.2	82.5	86.4				

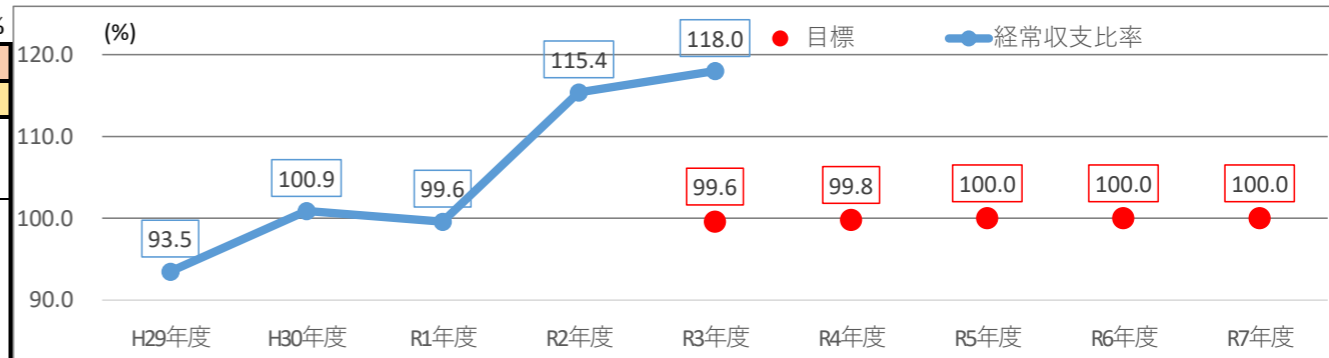


※医業収支比率 = (医業収益) / (医業費用) × 100

b 経常収支比率

単位：%

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
経常収支比率	目標値	92.7	95.8	96.5	98.0	99.6	99.8	100.0以上	100.0以上	100.0以上
	上半期実績	112.4	106.1	104.9	88.4	96.5				
H28実績：93.9	年間実績	93.5	100.9	99.6	115.4	118.0				



※経常収支比率 = { (医業収益) + (医業外収益) } / { (医業費用) + (医業外費用) } × 100

(イ) 経費削減に係るもの

令和3年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

高度急性期医療の提供には、専門的知識を有する職員の確保と薬品、診療材料の使用が不可欠であるため、費用は一定程度増加すると考えていますが、収益を増加させることで適正な対医業収益比率を維持しなければなりません。

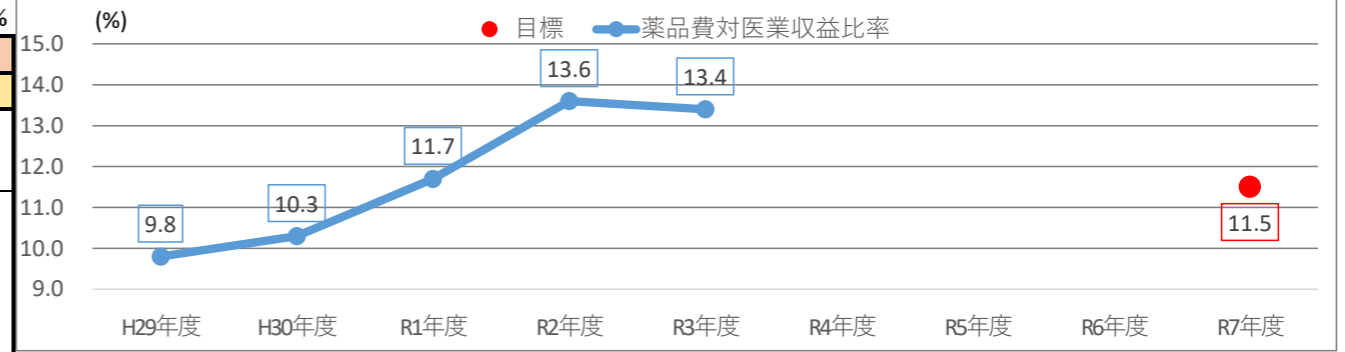
令和3年度は、前年度と比べ、薬品費が約7,700万円、診療材料費が約1億1,000万円、給与費が約6,000万円増加しましたが、一方で、医業収益も約7億2,100万円増加しました。費用の増加に比べて、収益の増加が大きかったため、「薬品費対医業収益比率」及び「職員給与費対医業収益比率」は前年度よりも改善しましたが、目標を達成することはできませんでした。「診療材料費対医業収益比率」は前年度より上昇しましたが、これは手術等の増加によるものと考えています。

今後も、費用対効果を考慮した上で、必要な職員を確保するとともに、高度急性期医療に必要な薬品や診療材料を適正に使用することで収益を上げるとともに、効率的な運営を行うことで支出の抑制を図り、適正な対医業収益比率を維持します。

a 薬品費対医業収益比率

単位：%

【関係部門】		診療部門、薬剤部門、事務部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
薬品費 対医業収益比率	目標値	10.8	11.5	11.5	11.5	現在の低い比率を維持します。				11.5
	上半期実績	11.2	11.8	14.6	17.4	16.3				
	H28実績：10.3 年間実績	9.8	10.3	11.7	13.6	13.4				

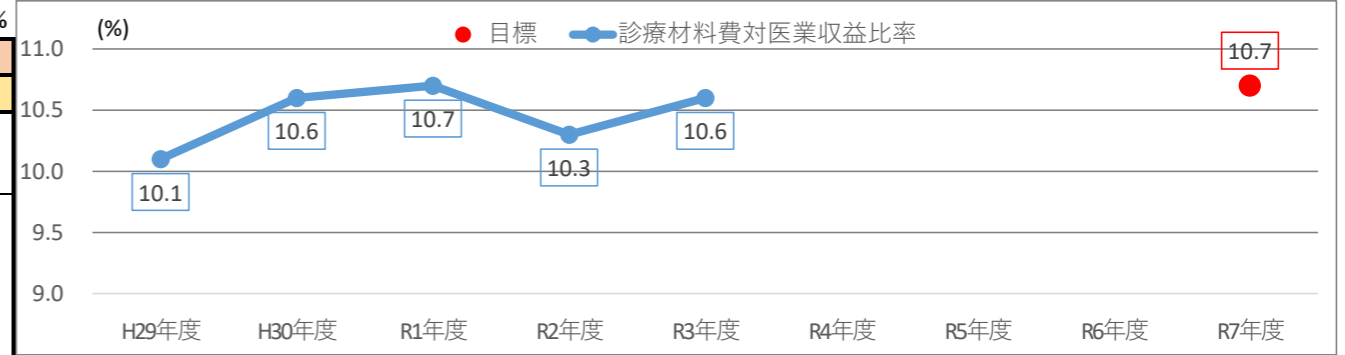


※薬品費対医業収益比率= (薬品費) / (医業収益) × 100

b 診療材料費対医業収益比率

単位：%

【関係部門】		診療部門、事務部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
診療材料費 対医業収益比率	目標値	10.8	12.4	12.4	12.4	現在の低い比率を維持します。				10.7
	上半期実績	11.2	11.5	11.9	12.1	12.1				
	H28実績：10.6 年間実績	10.1	10.6	10.7	10.3	10.6				

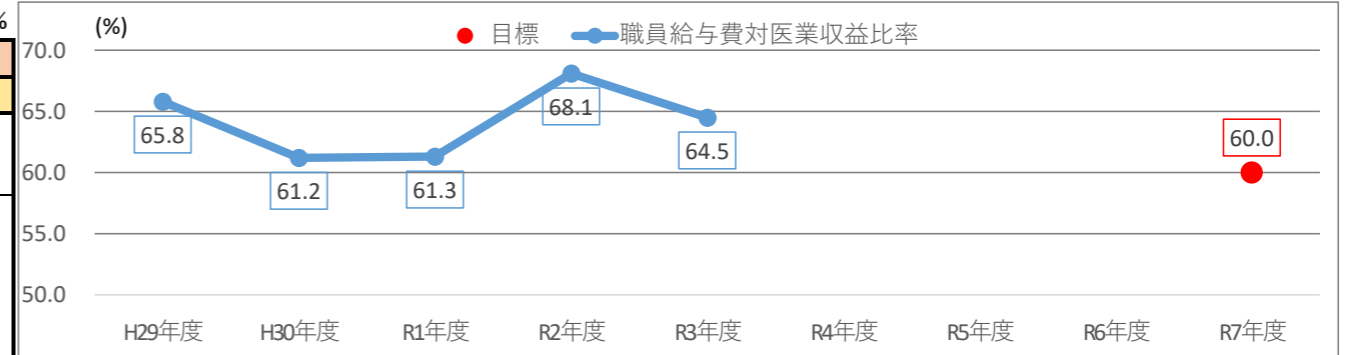


※診療材料費対医業収益比率= (診療材料費) / (医業収益) × 100

c 職員給与費対医業収益比率

単位：%

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
職員給与費 対医業収益比率	目標値	64.5	57.9	57.4	55.4	増加の抑制に努めます。				60.0
	上半期実績	54.8	51.8	50.3	64.0	56.5				
	H28実績：65.8 年間実績	65.8	61.2	61.3	68.1	64.5				



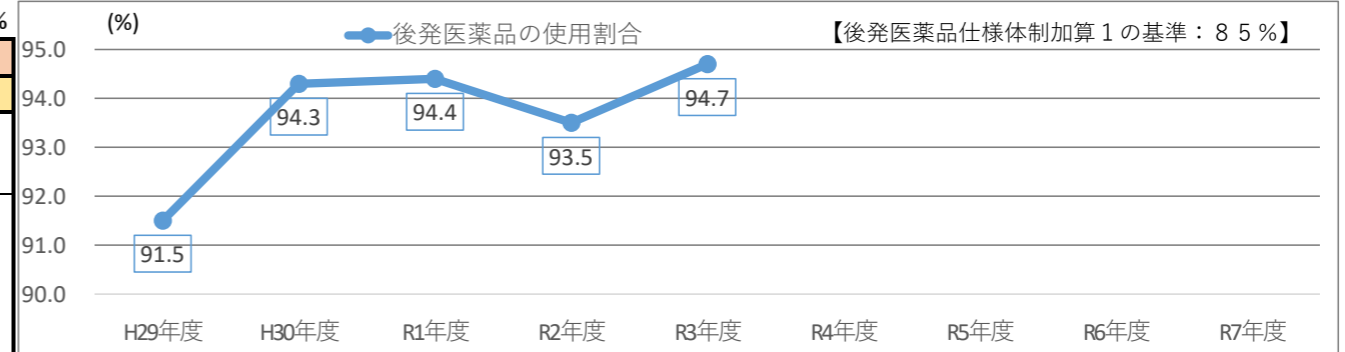
※職員給与費対医業収益比率= (給与費) / (医業収益) × 100

d 後発医薬品の使用割合

(使用量ベースによる割合)

単位：%

【関係部門】		診療部門、薬剤部門、事務部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
後発医薬品の 使用割合	目標値	84	85	86	87	後発医薬品使用体制加算1の 施設基準を満たします。				
	上半期実績	-	94.1	93.7	93.2	94.8				
	H28実績：85.5 年間実績	91.5	94.3	94.4	93.5	94.7				



※後発医薬品の使用割合= (後発医薬品) / { (後発医薬品のある先発医薬品) + (後発医薬品) } × 100

(ウ) 収入確保に係るもの

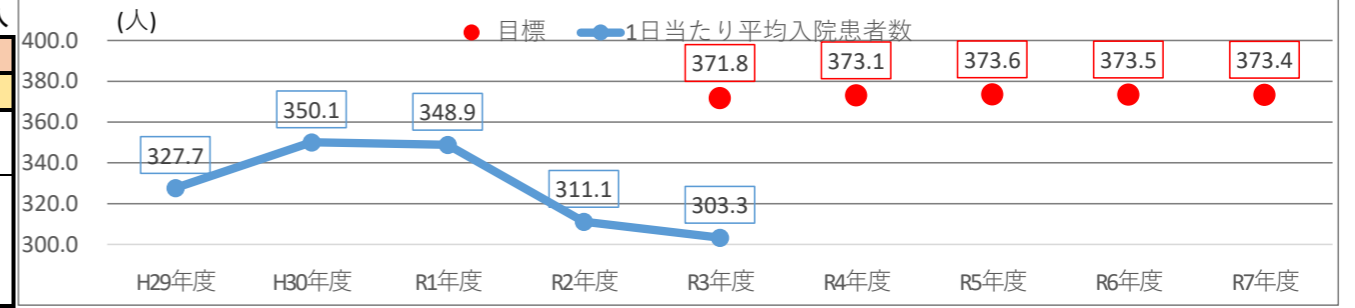
令和3年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

高度急性期医療を提供する病院として、令和3年度は、新入院患者の確保とDPCの入院期間を意識した在院日数を重視しました。取組の結果として、新入院患者数と入院診療単価は増加したものの、1日当たりの平均入院患者数は目標に達しませんでした。外来患者数については、前年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えなどにより大きく減少しましたが、令和3年度はやや増加しました。「外来診療単価」も増加しており、入院から外来へのシフトが進んでいると考えています。入院、外来共に、当院が目指す方向に沿った成果が出てきていますが、今後も患者や地域の皆さんから信頼を得て「選ばれる病院」となるように努め、新入院患者の更なる増加を図ります。

a 1日当たり平均入院患者数

単位：人

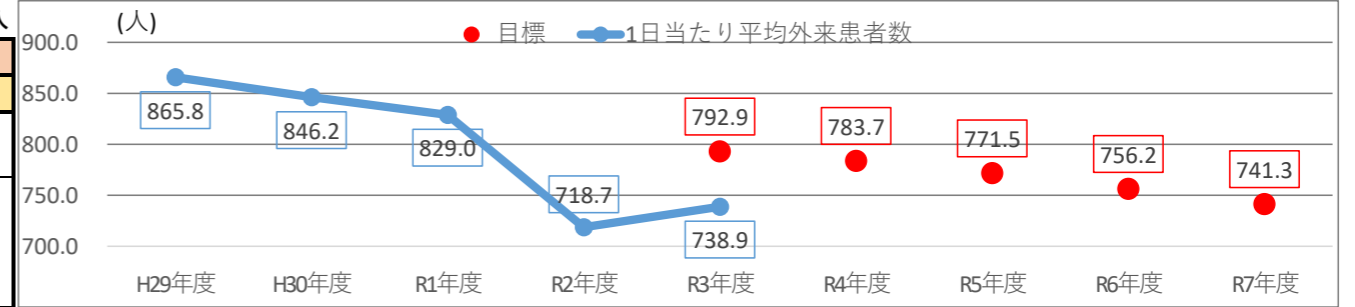
【関係部門】		診療部門、事務部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
全体計	目標値	351.0	351.0	350.0	370.0	371.8	373.1	373.6	373.5	373.4
	上半期実績	325.9	345.5	352.5	305.2	307.1				
	H28実績：353.4	年間実績	327.7	350.1	348.9	311.1	303.3			



b 1日当たり平均外来患者数

単位：人

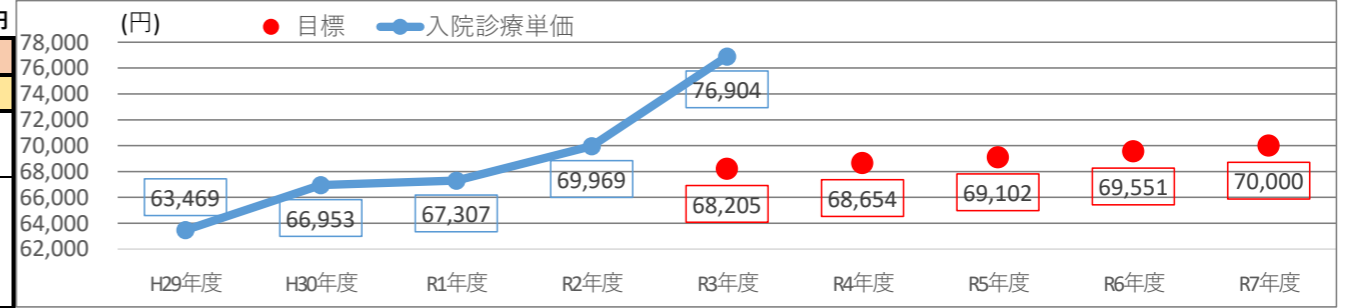
【関係部門】		診療部門、事務部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
全体計	目標値	915.0	887.0	852.0	824.0	792.9	783.7	771.5	756.2	741.3
	上半期実績	877.4	836.3	839.3	693.3	732.3				
	H28実績：924.3	年間実績	865.8	846.2	829.0	718.7	738.9			



c 入院診療単価

単位：円

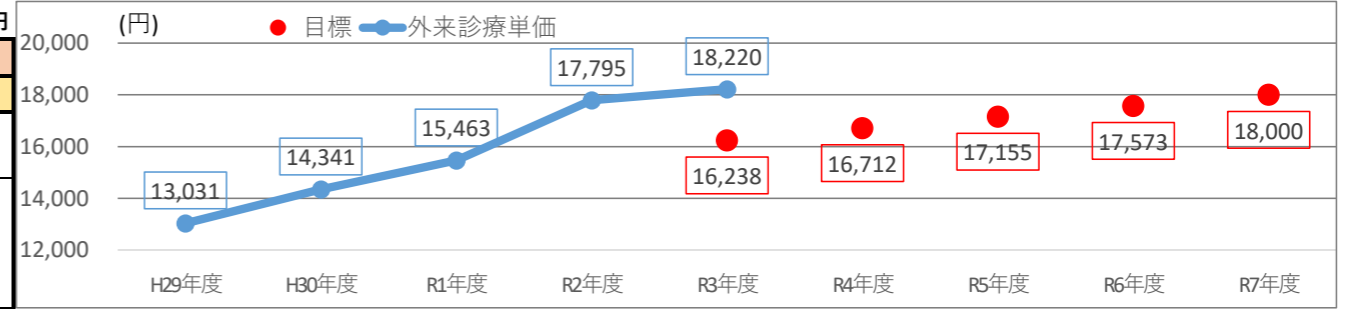
【関係部門】		診療部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
全体計	目標値	63,100	67,050	68,750	69,690	68,205	68,654	69,102	69,551	70,000
	上半期実績	62,136	65,208	66,539	60,282	72,016				
	H28実績：56,879	年間実績	63,469	66,953	67,307	69,969	76,904			



d 外来診療単価

単位：円

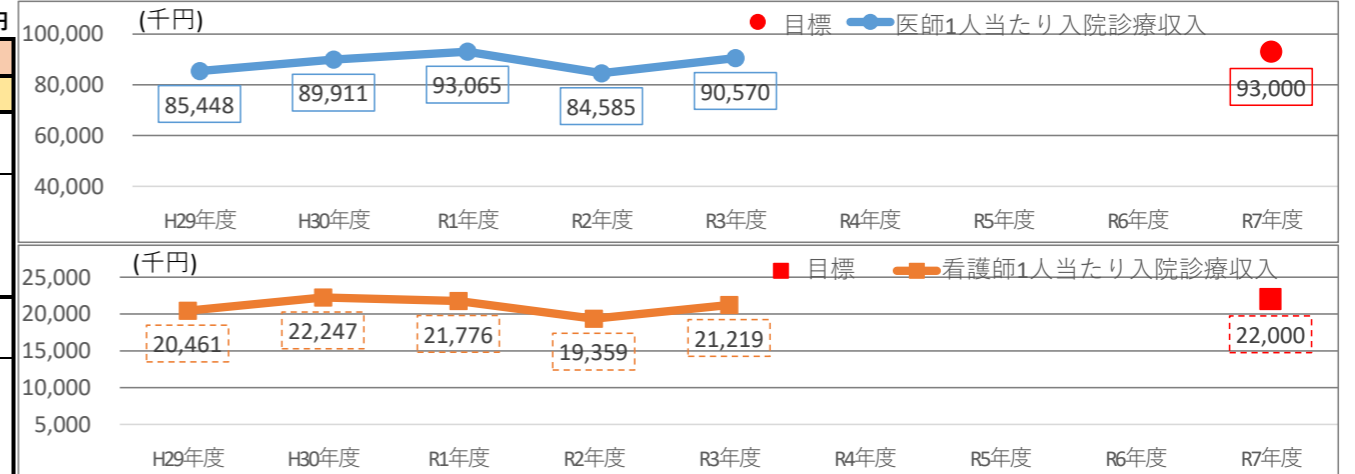
【関係部門】		診療部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
全体計	目標値	12,130	12,460	12,840	13,250	16,238	16,712	17,155	17,573	18,000
	上半期実績	12,162	13,811	15,071	17,359	18,429				
	H28実績：11,969	年間実績	13,031	14,341	15,463	17,795	18,220			



e 医師及び看護師1人当たり入院診療収入

単位：千円

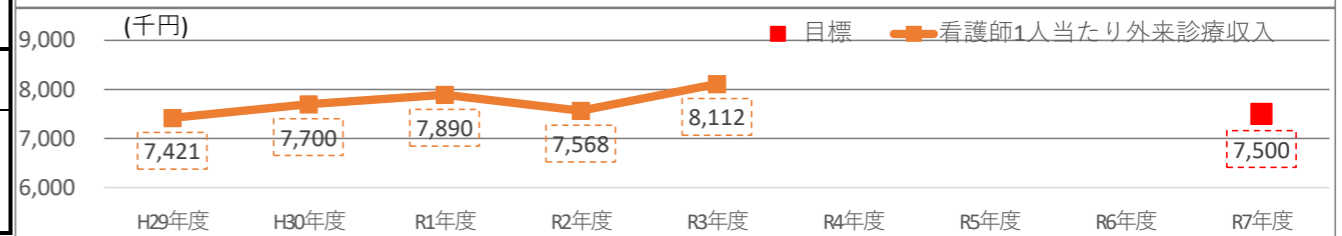
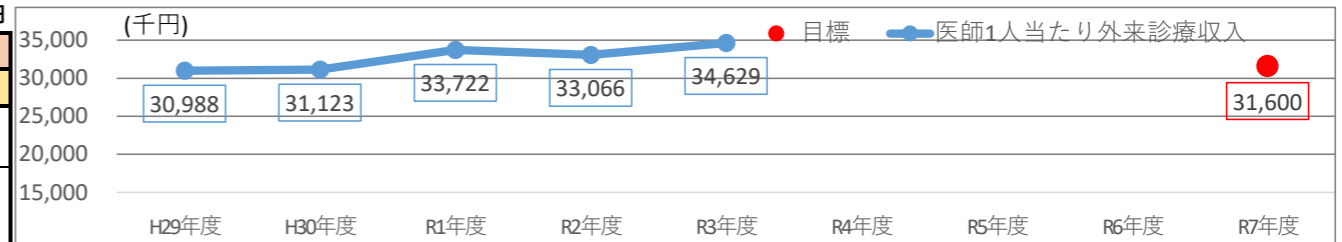
【関係部門】		診療部門、看護部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
医師	目標値	86,040	89,520	90,160	94,100	増加を目指します。				93,000
	上半期実績	40,959	43,094	45,542	35,485	42,678				
	H28実績：80,169	年間実績	85,448	89,911	93,065	84,585	90,570			
看護師	目標値	22,470	23,230	23,250	24,130	増加を目指します。				22,000
	上半期実績	9,920	10,645	10,727	8,143	9,970				
	H28実績：21,094	年間実績	20,461	22,247	21,776	19,359	21,219			



f 医師及び看護師1人当たり外来診療収入

単位：千円

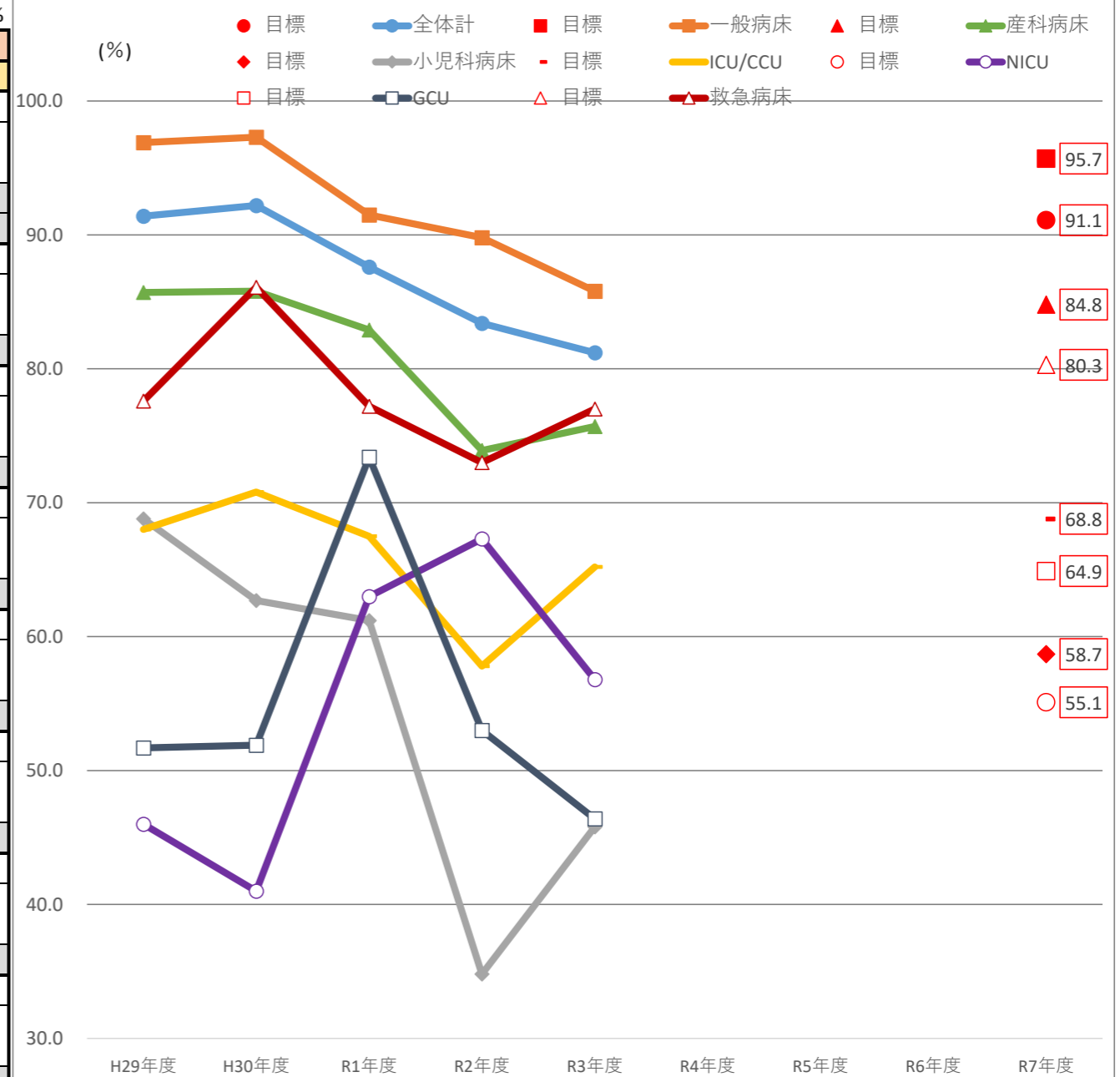
【関係部門】		診療部門、看護部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
医師	目標値	28,940	28,100	27,340	26,630	現在の状況を維持します。				31,600
	上半期実績	14,622	14,973	16,635	15,473	17,364				
	年間実績	30,988	31,123	33,722	33,066	34,629				
H28実績：29,388										
看護師	目標値	7,560	7,290	7,050	6,830	現在の状況を維持します。				7,500
	上半期実績	3,543	3,699	3,918	3,551	4,053				
	年間実績	7,421	7,700	7,890	7,568	8,112				
H28実績：7,732										



g 病床利用率

単位：%

【関係部門】		診療部門、看護部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
全体計	目標値	85.6	90.0	90.0	90.2	高い水準を維持します。				91.1
	上半期実績	91.5	92.5	89.5	-	83.2				
	年間実績	91.4	92.2	87.6	83.4	81.2				
	参考1	79.9	85.4	85.1	75.9	74.0				
	参考2	83.9	84.8	80.6	75.4	74.4				
一般病床	目標値	88.3	94.0	94.0	94.0	高い水準を維持します。				95.7
	上半期実績	96.7	97.9	93.3	-	88.0				
	年間実績	96.9	97.3	91.5	89.8	85.8				
参考1	81.8	88.4	88.2	80.4	77.6					
産科病床	目標値	90.0	90.0	90.0	90.0	高い水準を維持します。				84.8
	上半期実績	86.3	85.8	81.1	-	76.7				
	年間実績	85.7	85.8	82.9	73.9	75.7				
参考1	85.7	85.8	82.9	73.9	75.7					
小児科病床	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	高い水準を維持します。				58.7
	上半期実績	76.3	62.8	65.8	-	51.1				
	年間実績	68.8	62.7	61.2	34.8	45.8				
参考1	68.8	62.7	61.2	34.8	45.8					
ICU/CCU (集中治療室)	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	高い水準を維持します。				68.8
	上半期実績	65.7	67.9	68.3	-	61.4				
	年間実績	68.0	70.8	67.5	57.8	65.2				
参考1	68.0	70.8	67.5	57.8	65.2					
NICU (新生児特定 集中治療室)	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	高い水準を維持します。				55.1
	上半期実績	51.2	45.7	71.0	-	59.9				
	年間実績	46.0	41.0	63.0	67.3	56.8				
参考1	46.0	41.0	63.0	67.3	56.8					
GCU (継続保育治 療室)	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	高い水準を維持します。				64.9
	上半期実績	54.7	57.0	81.6	-	49.9				
	年間実績	51.7	51.9	73.4	53.0	46.4				
参考1	51.7	51.9	73.4	53.0	46.4					
救急病床	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	高い水準を維持します。				80.3
	上半期実績	73.7	83.1	78.5	-	77.0				
	年間実績	77.6	86.1	77.2	73.0	77.0				
参考1	77.6	86.1	77.2	63.7	57.8					

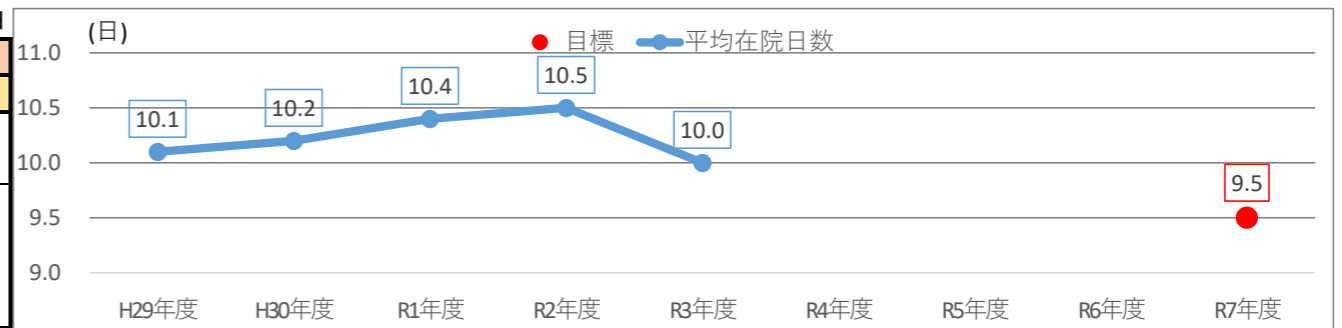


※病床利用率は、(入院延患者数) / (稼働病床 (新型コロナウイルス感染症対応のための休止病床等を除く) ベースでの延病床数) × 100で算出していますが、参考1「(入院延患者数) / (許可病床ベースでの延病床数) × 100」、参考2「(退院患者を除外した延患者数) / (稼働病床ベースでの延病床数) × 100」を記載しています。

h 平均在院日数

単位：日

【関係部門】		診療部門、看護部門、地域医療支援部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
平均在院日数	目標値	10.1	9.9	9.7	9.5	短縮を目指します。				9.5
	上半期実績	10.0	10.3	10.1	10.5	9.9				
	年間実績	10.1	10.2	10.4	10.5	10.0				
H28実績：10.5										



IV 職員の学習と成長の視点

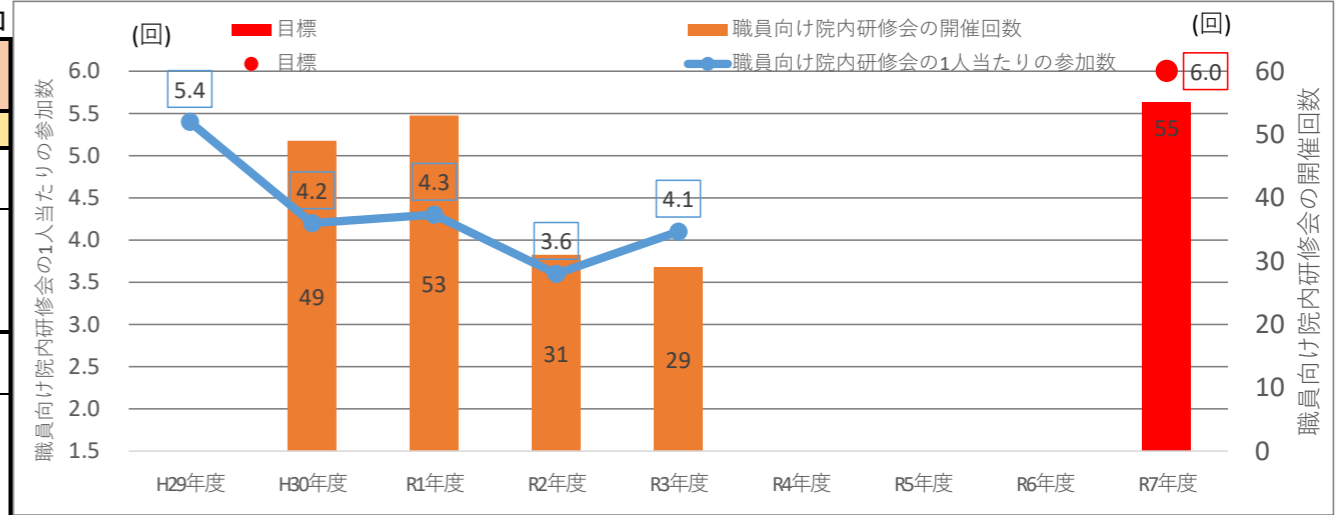
令和3年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

職員の教育・育成は、当院の基本方針にも位置付けられている重要な要素であり、質の高い職員を育成するために、成長の機会を提供し、職員にとって魅力ある環境の整備が必要であると考えています。
令和3年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響があり、研修会等の開催は少なかったものの、オンラインの活用など様々な工夫をしながら、職員の教育・育成を行いました。今後も、教育の場の充実やキャリアアップ制度の整備により、学びたい職員を支援する環境を整え、職員の育成、能力向上を図ります。

(ア) 職員向け院内研修会の1人当たりの参加数

単位：回

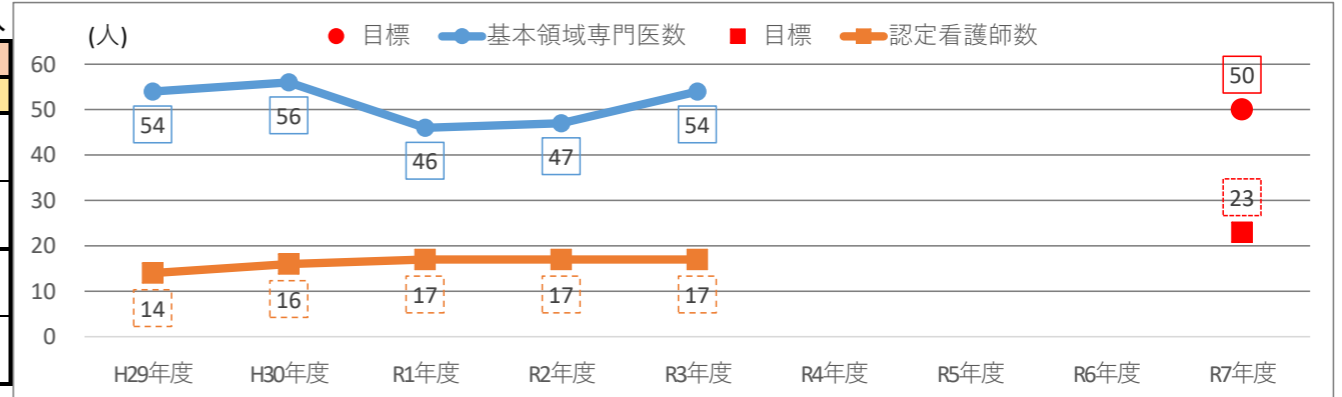
【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
職員向け院内研修会の1人当たりの参加数	目標値	5	5	6	6	引き続き職員に学習の場を提供し、質の高い人材の確保、育成を目指します。				6
	上半期実績	2.6	2.1	2.1	0.6	-				
	年間実績	5.4	4.2	4.3	3.6	4.1				
職員向け院内研修会の開催回数	目標値	-	-	-	-	引き続き職員に学習の場を提供し、質の高い人材の確保、育成を目指します。				55
	上半期実績	-	-	-	-	-				
	年間実績	-	49	53	31	29				



(イ) 有資格者数

単位：人

【関係部門】		診療部門、看護部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
基本領域専門医数	目標値	53	54	55	56	資格を有する職員を確保、育成し、増加を目指します。				50
	実績	54※	56※	46※	47※	54※				
認定看護師数	目標値	17	19	21	23	資格を有する職員を確保、育成し、増加を目指します。				23
	実績	14※	16※	17※	17※	17※				



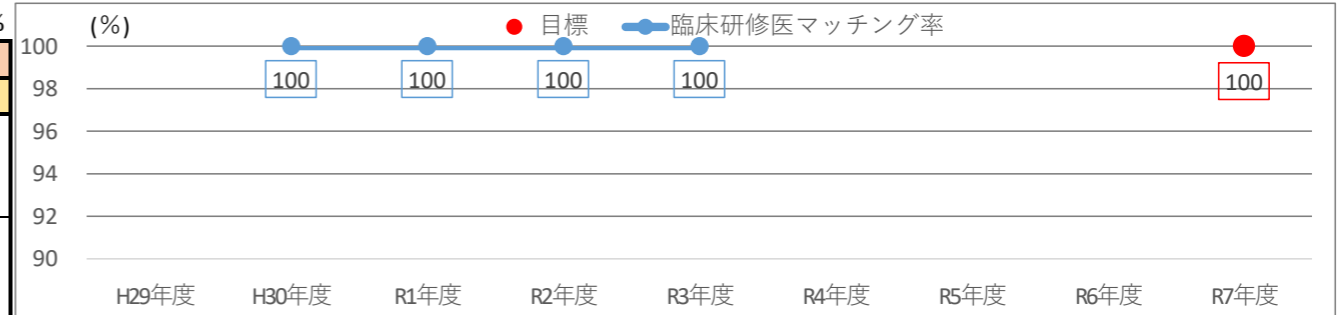
※各年度10月1日時点。正規職員の人数。

※令和元年度以降の「基本領域専門医数」の実績は、新専門医制度で基本領域と扱われている専門医資格を有する人数です。

(ウ) 臨床研修医マッチング率

単位：%

【関係部門】		診療部門、事務部門								
区分/年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
臨床研修医マッチング率	目標値	-	-	-	-	魅力ある研修環境の整備により、高い水準を維持します。				100
	実績	-	100	100	100	100				



V 社会貢献の視点

令和3年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

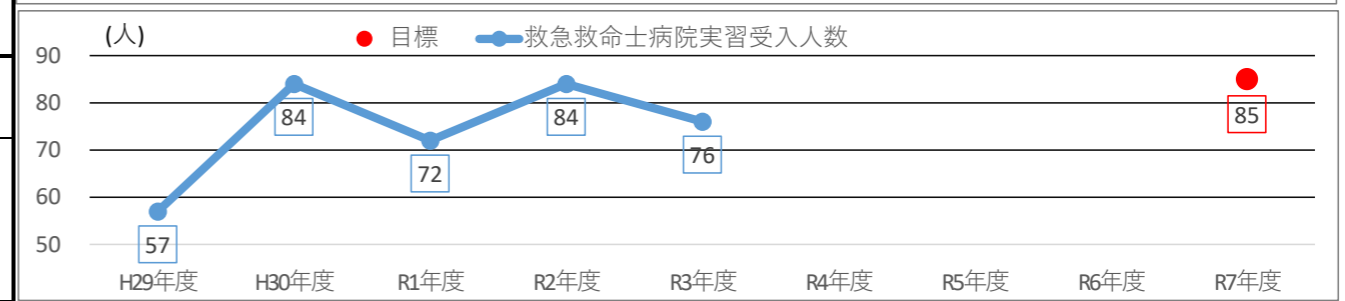
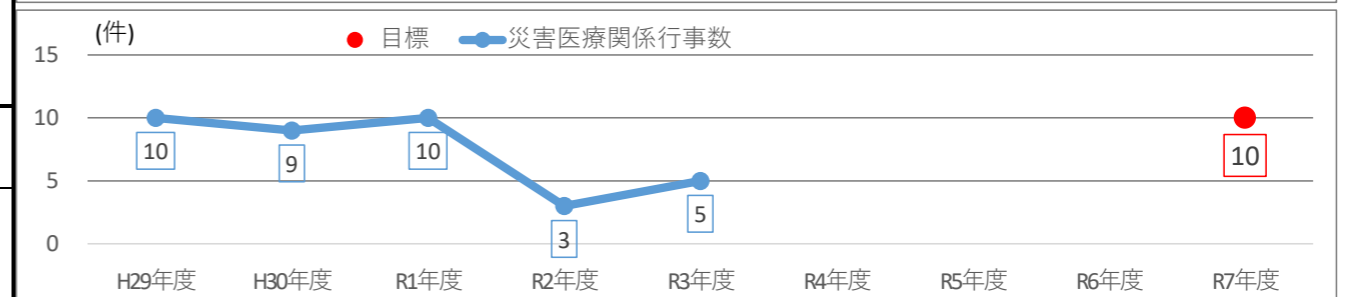
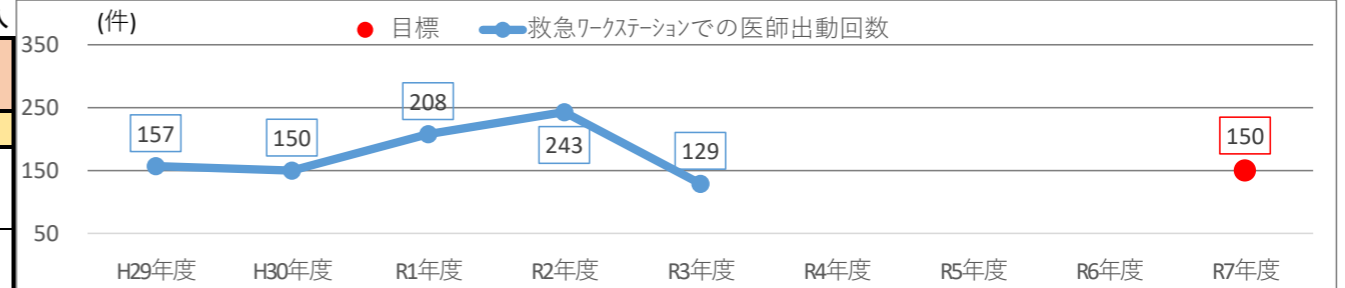
地域の中核病院として、救急医療、災害医療や人材育成、情報発信などさまざまな分野での社会貢献に積極的に取り組んでいます。特に、新型コロナウイルス感染症対応では、第二種感染症指定医療機関として、神奈川モデルの高度医療機関、重点医療機関協力病院に認定され、地域が必要とされる医療を担っています。

今後もニーズを踏まえ、地域に出て活動することで、広く社会全体に貢献し、当院の存在価値を高めていきます。

(ア) 社会貢献活動の実施数

単位：件・人

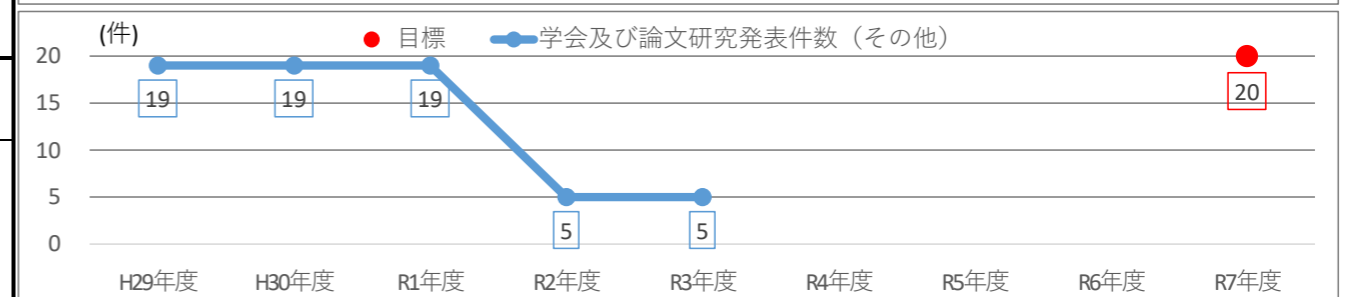
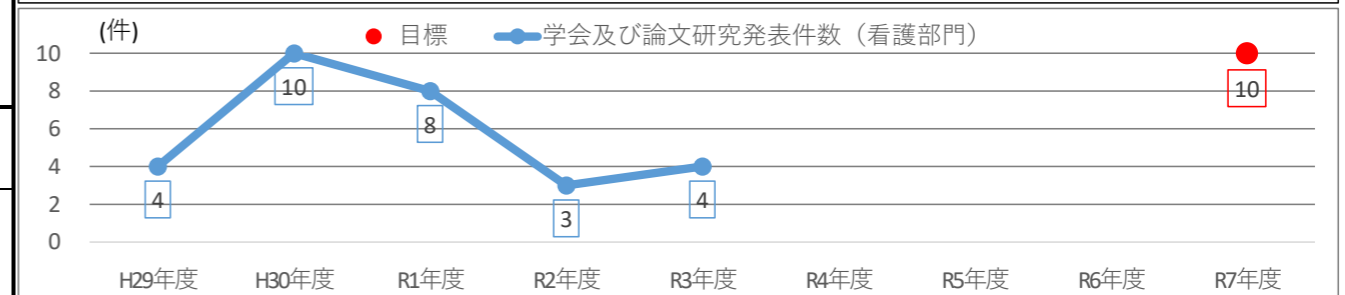
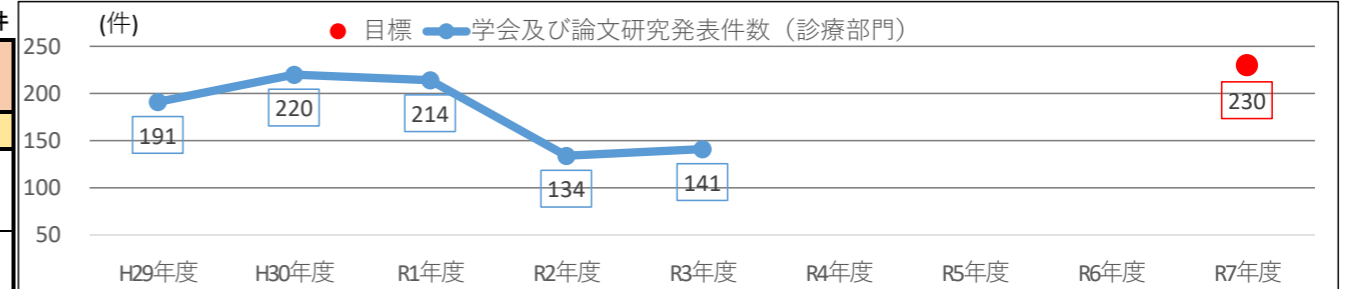
【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門									
区分/年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
救急ワークステーションでの医師出動件数	目標値	150	150	150	150	引き続き災害拠点病院としての役割を果たすとともに救急隊との連携を充実させる取組みを行います。				150
	上半期実績	63	68	97	75	59				
	年間実績	157	150	208	243	129				
災害医療関係行事（活動）数	目標値	10	10	10	10	引き続き災害拠点病院としての役割を果たすとともに救急隊との連携を充実させる取組みを行います。				10
	上半期実績	6	6	7	1	2				
	H28実績：11 年間実績	10	9	10	3	5				
救急救命士病院実習受入人数	目標値	55	55	55	55	引き続き災害拠点病院としての役割を果たすとともに救急隊との連携を充実させる取組みを行います。				85
	上半期実績	27	35	61	60	62				
	H28実績：52 年間実績	57	84	72	84	76				



(イ) 学会及び論文研究発表件数

単位：件

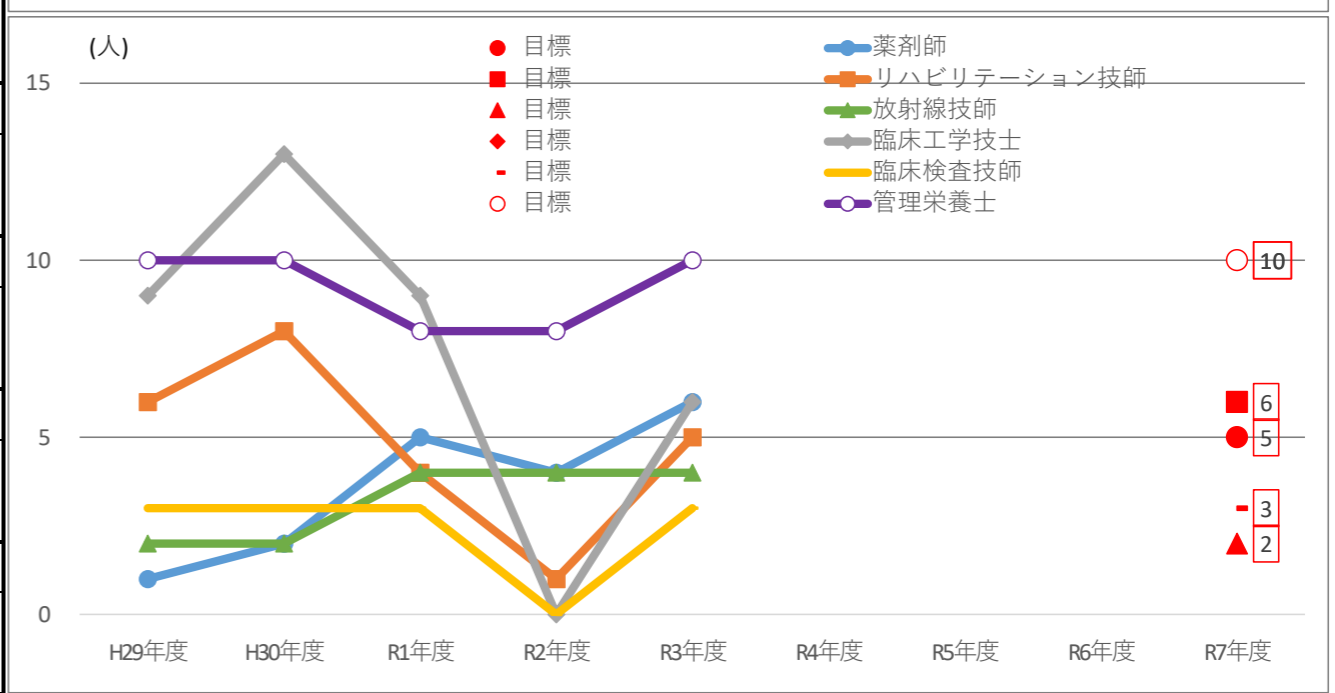
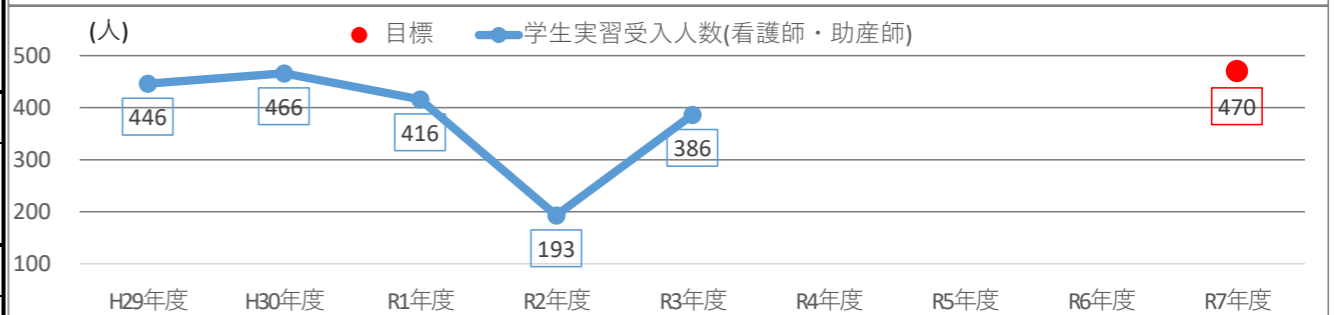
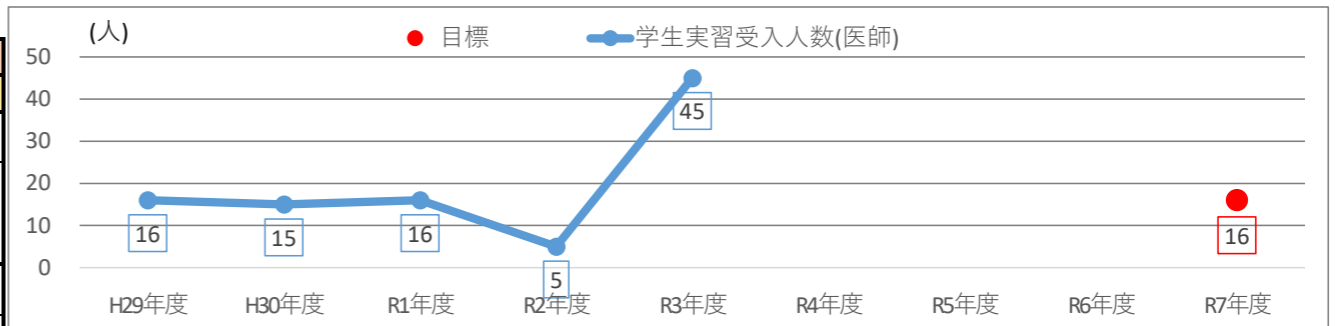
【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門									
区分/年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
診療部門	目標値	170	175	180	185	引き続き研究成果を社会に還元します。				230
	上半期実績	-	-	-	-	-				
	H28実績：178 年間実績	191	220	214	134	141				
看護部門	目標値	5	5	6	6	引き続き研究成果を社会に還元します。				10
	上半期実績	-	-	-	-	-				
	H28実績：8 年間実績	4	10	8	3	4				
その他	目標値	30	32	34	36	引き続き研究成果を社会に還元します。				20
	上半期実績	-	-	-	-	-				
	H28実績：22 年間実績	19	19	19	5	5				



(ウ) 学生実習受入人数

単位：人

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門	区分/年度								
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
医師	目標値	17	18	19	20	引き続き人材育成に取り組みます。				16
	上半期実績	9	-	11	0	32				
	年間実績	16	15	16	5	45				
看護師・助産師	目標値	520	520	520	520	引き続き人材育成に取り組みます。				470
	上半期実績	249	237	270	55	221				
	年間実績	446	466	416	193	386				
H28実績：438										
薬剤師	目標値	1	4	4	4	引き続き人材育成に取り組みます。				5
	上半期実績	1	2	5	4	6				
	年間実績	1	2	5	4	6				
H28実績：2										
リハビリテーション技師	目標値	7	7	7	7	引き続き人材育成に取り組みます。				6
	上半期実績	4	6	2	0	1				
	年間実績	6	8	4	1	5				
H28実績：7										
放射線技師	目標値	1	1	2	2	引き続き人材育成に取り組みます。				2
	上半期実績	2	2	2	1	4				
	年間実績	2	2	4	4	4				
H28実績：0										
臨床工学技士	目標値	7	7	7	7	引き続き人材育成に取り組みます。				10
	上半期実績	9	13	9	0	6				
	年間実績	9	13	9	0	6				
H28実績：7										
臨床検査技師	目標値	2	2	2	2	引き続き人材育成に取り組みます。				3
	上半期実績	3	3	3	0	3				
	年間実績	3	3	3	0	3				
H28実績：2										
管理栄養士	目標値	8	10	10	10	引き続き人材育成に取り組みます。				10
	上半期実績	2	2	2	1	4				
	年間実績	10	10	8	8	10				
H28実績：6										



(エ) 講座及び講演数

単位：件

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門	区分/年度								
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民向け出張講座開催数	目標値	11	12	13	15	引き続き積極的な情報発信を行います。				16
	上半期実績	-	-	-	-	-				
	年間実績	16	16	9	2	10				
H28実績：13										
市民向け院内講座開催数	目標値	55	56	57	60	引き続き積極的な情報発信を行います。				60
	上半期実績	-	-	-	-	-				
	年間実績	33	42	34	0	0				
医療機関向け公開講座開催数	目標値	16	17	18	20	引き続き積極的な情報発信を行います。				30
	上半期実績	-	-	-	-	-				
	年間実績	19	25	24	0	3				
講演講師派遣数	目標値	40	40	45	45	引き続き積極的な情報発信を行います。				80
	上半期実績	-	-	-	-	-				
	年間実績	80	71	74	43	55				

